なかさと

毎月一回 15日
定価 1部 5円
発行所
中里村公民館
現在人口
男 4,268
女 4,425
計 8,693
世帯数 1,690

教職員の人事異動

田沢中、高道山小学校長替わる

【藤田田沢中学校長】

【高橋高道山小学校長】

昭和三十九年度末、四十年度はじめにおける学校教職員の人事異動は、去る三月三十一日に県教育委員会から発表されたが中里村においても校長では在村八ヵ年（貝野小五年、田沢中三年）の石沢藤栄氏が、南魚五十沢中学校へ、同じく高道山小在職八ヵ年の田中富士松氏が津南芦ヶ崎小学校へ転出し、後任として田沢中学校に小千谷市岩沢小学校より藤田庚二氏、高道山小学校は長岡市立中島小学校から高橋文夫氏がそれぞれ発令された。また昭和二十九年から満十年余り在職した県立十日町高校田沢分校主任関口義平氏は、今回群馬県嬬恋村群馬県立中之条高校嬬恋分校に転任。そのほか一般教職員では転出十七名（高校田沢分校含む）退職五名転入二十四名（高校田沢分校含む）の異動が発令された。

なお、昭和四十年度において中里村管内学校教員組織の面で改善された点は、助教諭が僅か一部を残し整理されたこと。小学校六学級における教員配当が男女教員の比率がこれまでの男四名女四名から、男五名女三名に改善されたこと。倉俣中学校の学級増が認められ六学級になったこと。田沢小、中学校が準へき地取扱いとなった。田沢中学校に養護教諭が配当になったことである。

村内各学校における人事異動は次のとおり。

【転出、退職】

▽田沢小学校
白岩 精男（長岡市中島小）
中村 マツ（十日町市水沢小）
太田トヨ子（退 職）
岡村 芳美（退 職）
▽高道山小学校
田中富士松（津南町芦ヶ崎小）
小川 伸一（加茂市須田小）
西脇 恵子（退 職）
▽倉俣小学校
桑原 護洋（退 職）
▽貝野小学校
佐藤 ハナ（退 職）
▽清津峡小学校
樋口 ヒサ（十日町市馬場小）
関口 晴之（刈羽北条長鳥小）
▽田沢中学校
石沢 藤栄（南魚五十沢中）
舘張 尚武（北魚広瀬中）
市橋 弘（両津内海府中）
竹内 実（直江津中）
鈴木 孝基（津南中津中）
倉田 一子（新発田菅谷中）
▽倉俣中学校
吉田良弘（北魚第一湯之谷中）
串橋 弘子（糸魚川小）
▽貝野中学校
渋谷 盛栄（加茂市七谷中）
岡村 政雄（十日町市下条中）
小林 知子（三条市本城寺中）
▽十日町高校田沢分校
関口 義平（群馬県立中之条高校嬬恋分校）
霜垣 欽二（千葉県立旭農業高校）

【転 入】

▽田沢小学校
柳 松雄（長岡市四郎丸小）
宮井 道（十日町市馬場小）
狭野 義之（中頸城櫛池小）
柳沢 一成（新採用）
▽高道山小学校
高橋 文夫（長岡市中島小）
竹田 基（北蒲原豊浜小）
高橋 信子（新卒）
▽倉俣小学校
小島 義成（津南町上郷小）
▽貝野小学校
久保田 伊（十日町市中条中）
▽清津峡小学校
竹田悠紀子（新潟市内野小）
高橋 春彦（新卒）
樋口 早苗（[illegible]）
▽田沢中学校
藤田 庚二（小千谷市岩沢小）
大坪 広子（新卒）
斉藤 健夫（新卒）
石沢 清博（津南町下船渡中）
織田 洋子（新卒）
高橋 幸子（新卒）
佐々木アツ子（岩船郡神林村平林小）養護教諭
▽倉俣中学校
村山 陽介（見附市葛巻中）
山野井浩子（新卒）
竹内 静江（新卒）
▽貝野中学校
久保田啓子（[illegible]
和田千[illegible]
▽[illegible]
[illegible]（新卒）
[illegible]上郷中）

段丘地総合開拓

パイロット事業採択決まる

さきに清津川右岸段丘地受益関係者から申請されていた総合開拓パイロット事業が、国における審査を経てこのほど採択の内示となりました。受益者はもちろん事業推進については、多くの方々のご協力がこゝに実って、中里村多年の願いが実現に一歩前進したことは大きな喜びです。

事業の内容等については既に説明会や印刷物などで関係者には周知の通りですが、事業の施行順序としては次のようになっています。

昭和四十年度は調査期間にあてられ、これまでの調査にさらに調査を加えて実施計画書を作成いたします。実際工事は昭和四十一年度から昭和四十四年度までの四ヵ年間の予定で、概算事業費は六億三千万円。開田三三九、八㌶を県営事業として施工する計画であります。地元の態勢としては土地改良区を設立し（現在設立準備中です）、これが地区内の開墾、末端工事等の施行と今後の維持管理にあたることになります。

この事業の推進には、受入れ態勢、営農計画の樹立や一部残された権利関係の調整など種々の問題が生じますが、関係皆様方はじめ、全村民各位の一層のご協力をいただきたいものです。

役場職員人事

四月一日発令

中里村役場では、四月一日付で次のとおり職員の人事異動を行ないました。

▽異動（ ）内は旧所属課
行政課
主事 上原 康義（税務課）
書記 滝沢 ハマ（企画課）
事務雇 樋口 秀一（新採用）
同 広田美津枝（同 ）
[illegible]
[illegible]
書記 富井 正市（建設課）
同 村山 茂徳（産業課）
同 広田 政子（行政課）
産業課
主事 江口 ツヤ（収入役室）
書記 井ノ川洋一郎（社厚課）
事務雇 南雲 正敏（同 ）
建設課
書記 阿部 隆嗣（教 委）
同 樋口 洋子（産業課）
事務雇 渡辺 利弘（新採用）
収入役室
主事 鈴木カツミ（教 委）
教育委員会
書記 上原 健（建設課）
同 樋口 満子（同 ）
▽退職
主事 滝沢満五郎（行政課）
同 滝沢 正巳（同 ）
同 阿部 安栄（同 ）
同 南雲 孝敏（同 ）

社会へ羽搏く少年へ

中里村公民館長 齋藤 大馨

就職と進学の春で、父兄にとっては悲喜交々の今日此の頃である。中学校の卒業式に出て何時も痛感するのは、朝夕同じ校舎で育った少年、少女たちが思い思いの人生行路をゆくことである。上級学校へ進学する少年少女たちには、たいした感慨はわかないだろうが、そのまま実社会へはばたくものには、祈りに似た親心を感じる。

学園生活と実社会は等気圧ではない。気圧の違う実社会へ入ることは、新しい職場へそのまま「入学」することになる。人生に卒業はなく、卒業と入学は隣り合わせで一生つづく。そこに無限の向上と発展がある。

働くことは人間の本分で、職場では常に競争がつきまとっている。競争のない職場などはあり得ない。ある意味で人生は競争だがスポーツの競技とはちがっている。スポーツのそれはスタートラインを引いて、みんな一緒に飛び出すが、人生はスタート自体が千差万別である。

富豪の家に生れたものもおれば、九尺二間の裏長屋に、孤々の声をあげたものもある。悠々と大学教育を受けて、外遊するものもおれば、義務教育すらおえれないものさえある。

同じ人間でありながら、どうして生れながらに、こんなに大きな開きがあるのか。むろん本人の責任ではないが、そうかといって両親の責任かというと必ずしもそうとはいえない。人間は生れたときから、それぞれ違った条件を備えている。いくら不平をいっても、どうにもならない。これが人生で、そこに又人生の妙用がある―ともいう。

さらに貧富のへだたりが大きいのは、社会制度の欠陥によるものだ、と革新政党に走るものもいる。しかし、いくら社会制度を改めても、それは相対的なもので、人間は個々別々に違った星のもとに、生れることにかわりはない。

現在は過去の集積で仏教ではこれを宿業といっている。富者に生れるのも、貧者に生れるのも、すべて過去の業縁により、生るべくして生れている。この過去のどうにもならない宿業を培うと、人生の開花は期して待つべきものがある。

アメリカのリンカーンは「人間も四十になったら自分の顔に責任をもて」といった。彼は一介の貧農から身を起こし、ついに大統領に当選して、ドレイを解放している。当選したとき選挙に骨を折った友人から新政権の重要なポストに、一人の人物を紹介してきたそうである。

彼はその人物に会ったのち、「あれは人相が気に喰わぬ」と、登用を断っているとか。

やはり人間も四十になったら自分の顔に責任をもちたい。

親から受けついだ人相を、少しでも立派な顔にするには、精神をみがいて仕事に魂を打ち込む以外にはない。人相といっても、眉目秀麗とか、色の白いのは七難かくすといったようなものではない。醜男は醜男ながら品のよい顔になれる。魂のみがかれた人は、会っていてもどこかに、心をひかれるものである。

人生は別に会社の社長になるとか、次官大臣になるのが目的ではない。一隅を照らす灯になることである。お茶汲みなんかばからしい。案内係りなんてあほらしい。というような考えを持つものがいるが、正しい仕事につまらない仕事は一つもない。問題はその仕事に魂を打込んで、一隅を照らす灯になるか、どうかにかかっている。

功の成るは成るの日に成るに非ず必ず因りて起る所あり、としっかりと胸に受けとめたい。

人生往来

◎誕生

子の名	父の名	部落名
南雲 春男	芳栄	程島
樋口 能久	正次	小原
上原 節子	武	山崎
清滝はるみ	重信	東田尻
古高美代子	隆二	朴木沢新田
大口 昌彦	保夫	上山
小林 昌一	繁造	土倉
上原真由美	堺	上山
藤巻 弘美	一政	鵜羽
山田 靖人	重政	角間
山本 恵	正一	小出
勝ノ木 正	春蔵	小出
宮井 広隆	政己	如来寺
宮井 武彦	武	如来寺
小巻沢 毅	寧	通り山
滝沢 和文	政俊	田代
桑原 幸広	徳松	田代
山田 英子	晃一	下山
徳井 清美	一正	堀之内
山田 国広	友四郎	宮中
村山 利子	忠一	宮中

◎華燭

（新郎 樋口 辰三（三〇）通り山
新婦 上村フジ子（二七）十日町）

（新郎 山田 俶雄（二三）小泉
新婦 野上 栄子（二三）川西町）

（新郎 市村 総和（二三）十日町
新婦 鈴木 幸子（二三）芋川）

◎昇天

氏名	年令	住所
村山 政一	（八二）	田沢
村山 むつ	（六八）	田沢
服部 浅治	（七三）	田沢
山田 カツ	（八二）	宮中
阿部 正義	（七九）	高道山
山田 兼蔵	（八五）	下山
山田 利一	（六九）	田代
斉藤 仁彦	（五八）	倉俣
池田 義則	（六〇）	宮中
中島 義一	（六二）	本屋敷
徳井祥次郎	（七三）	宮中
山田 カツ	（八一）	宮中

昨年、県の辺地婦人学級に指定された清津峡地区婦人学級のお母さんたちは、冬の間かかってガリ版刷りですが〝ぎよう〟というすばらしい生活記録集をつくりました。

× × ×

（文集ぎようより）

出かせぎ

私の家はいうまでもなく農家です。家族はいつも平均して大勢なのに七反前後の田を耕し、年に二十ないし三十〆の養蚕で一家が生活していくのですからどうしてもやりきれたものではありません。そこでなんとか農業外収入を考えなくてはなりませんが夏の間は近くに工事なりなにか仕事のある時は、農閑期を利用して多少の現金収入もあります。冬になると全く収入などありません。なんとか冬季間中、村で現金収入の出来る方法はないものかと首をひねりますがなかなかありません。それで仕方なく出稼ぎに行くようになります。可愛い子どもや年寄りを残して、遠くまで働きに行かなければならないなんてほんとうに寂しいことではありませんか。子どもたちは「父ちゃん、いくら貧乏でもいいから父ちゃんが家にいた方がいいなあ―」といって泣きつく子どもに、父ちゃんはお土産をたくさん買ってきてやるなどと子どもをだましながら出て行く本人にしろ、よそで仕事をしていても家のことは片時も忘れられないものでしょう。また、家に残された私たちも家の大黒柱をぬきとられたかのようなさびしい不安な気持ちで一ぱいです。

農村の母の思い

十年一昔というけれども五、六年前までは田んぼには素足で田打ちや田かきは牛や馬で一日に二反歩位しかかけなかったが今は田打ち田かきから全部長ぐつをはき耕耘機でやり、田の草は除草剤というように薬や機械でやり、稲も耕耘機やテッサクで運ぶようになり、昔とくらべて半分のなんぎもないようなのですが、それなのにどうして農家には嫁がないのでしょうか。これが農家にとっていちばんの苦しみなのです。

なかさと文芸

―四月投句―

仁 寿
この郷の四温は未だし彼岸花
かんじき履き小畦の蕗を覗き見る

正 光
親しさが湧きて廊下駄春日かな

まさの
粉末期室咲きの梅綿ほこり

義 雄
春雪や地蔵もかぶる綿ぼうし

土 牛
児送る駅頭の老母の目に涙

大 泉
ダムに佇ち飛沫届くも温かし
離村して三年の廃墟落椿
陽を返しバス春林を上り来ぬ

天来子
春泥を五十沢にまで持ち懐しむ

× × ×

中里俳句会では本欄に村内同好者各位の投句をお待ちしております。どしどしお寄せ下さい。宛先は中里村公民館です。

明るく正しい選挙

話しあいの話題 ⑵

2 政治

◎私達は政治の世界に住んいでる

〝政治の貧困〟とか、それは〝政治が悪いからだ〟とかいう言葉をよく耳にすることがありますが、それでは政治とはいったいなんでしょう。政治とは何かという問題については、いろいろな説明がなされていますが、ここで私達自身で、この問題を考えてみましょう。

政治を機能的にとらえれば、個人や集団の利害を調節し、社会的な均衡を形成し維持するものが政治である、ということができるでしょう。しかし問題は、知識として政治について知ることではなく、私達の住んでいる社会が、まさに政治の世界なのだということを身をもって知ることが大切だと考えます。

◎政治は日々のくらしを左右する

現代は〝政治化の時代〟とも呼ばれます。それは一方では政治が単に一国だけのものではなく、国内政治といえども国際政治の影響をつよく受けるということですし、他方では、政治が私達の個人生活のすみずみまで深く浸透しているということです。前者の例としては、貿易自由化の世界的風潮が、わが国を開放経済にふみきらせたということがあるでしょう。後者の例としては、政府の所得倍増政策、物価政策などが、日々の家計を左右するということがあります。

◎政治から逃れることはできない

政府の主要な仕事が国内治安の維持と対外防衛であった時代が去って、産業、教育、衛生、土木、厚生等、ほとんどあらゆる部分に拡張された今日の社会に住んでいる私達にとっては、政治から逃れようとしても、政治のほうで、いやおうなしに私達をつかんで放さないのだということができるでしょう。

このように政治の及ぼす影響は大きいので、政治の独裁を許さぬようにするため、民主主義の社会では立法、司法、行政が相互にチェックできるような制度がとられているのです。

◎政治に目を向けよう

現代の政治は、複雑多岐であり、私達が政治の動きを適確にとらえるにはむずかしい状況にあるということも事実でしょう。しかし私達の生活は政治と密接に結びついているのですし、政治は私達の外にあるのではなく、私達自身の主体的参与によって行なわれるのですから、私達主権者は、ふだんから政治に対して、きびしい眼を向ける姿勢を忘れないようにしたいものです。

3 地方自治

◎自治ということ

私達の住んでいる都道府県や市町村を地方自治といい、その区域の行政を処理していくために一定の自治権をもっています。私達がよく考えなければならないのは、これら地方自治体は、中央政府のためにあるのではなく、地方住民のために存在するものだということです。いいかえれば。地方自治体の最終責任者は中央政府やその他の誰にあるのでもなく、住民自体にあるということです。私達が都道府県の知事や、市町村長を選挙し、また議会の議員を選挙するのは、自分の住んでいる地方自治体の政治、行政を自分達の手で行なうためなのです。

◎国の行政と地方の行政

都道府県や市町村に自治権があるといいましたが、それは決して国に対する絶対的に自治権があるという意味ではありません。近代初期のヨーロッパの都市にはそういう意味での絶対的な自治権があったかもしれませんが、今日の国家においては、国や他の地方自治体に対して相対的な意味での自治権をもつものです。地方自治体が国の政策に全く反対した行政を行なったり、他の地方自治体の利益を無視したりすることは、結局、私達の幸福にならないはずです。同じように国が地方の実情を無視して独善的に政治を行なってもうまくいくはずがありません。

◎私達のくらしと直結する行政

地方自治体は、住民の福祉を増進させるために存在するものであり、その行政は私達の日常生活と深く結びついているのです。教育、土木、産業、社会福祉、衛生、消防、警察など、みな私達のくらしに直結しているものばかりです。このように身近かな問題を処理するのが、地方自治体の仕事なのです。それは、地方自治体で民主的に処理する方が適当なものが多いからです。またそれだけに私達は、自分の住む市町村や都道府県の政治、行政について、ふだんからもっと関心をもちたいものです。またそうすることによって、首長や議員を選ぶ地方選挙の重要性があらためて認識されるでしょう。

◎私達の活動範囲は広がった

最近、「広域行政」ということばがさかんにいわれますが、これは、私達の活動範囲、とくに経済活動の範囲が一市町村、一都道府県の範囲を超えるものが多くなり、従来の区域でそれぞれの地方自治体が独自の行政をやっていくのでは不十分な場合が生じてきたためです。経済活動の基礎となる道路や港湾など、広域的に処理した方がよいものが多くなってきました。そうすることによって、住民の福祉をますます増進してゆこうとしているのです。（以下次号）

（公明選挙連盟資料より）

国保増税に 理解と協力を

国保はいまや未曽有の財政的危機に直面しています。

困ってきた原因としては、

①高度医療の全面的採用

②被保険者の積極的な医療に対する自覚と活用にともなう、受診率の伸張

③保険給付の改善

等々大部分は喜ぶべきことでありますが、財政的立場から見ると文字通り危機であり、三九年度県内一一六の保険者（市町村など）の収支の見込みは、赤字決算のもの七一保険者で六二%強となっており、その額は、二億七千五百万円[redacted]告されています[redacted]

昭和四十年度は被保[redacted]場を考えながら、この難局[redacted]りきることが課せられた最も大きな目標であるといわれています。このような財政事情から中里村の国保では、昨年九月より三回に亘り国保運営協議会の慎重な検討をいたゞき、財政再建のために増税止むなしとの結論に達し、過ぐる村議会にこのことを詳細説明いたし、一世帯あたり約二千円の増税の議決を得たところでありますが、この額は、県内下位より九番目となっています。本来国保財政は医療費に見合った保険税と国庫負担金によって運営されることになっており、保険税は目的税とみなされ、国は[illegible]費の二五%を負担し残りの七五%は税で賄な[redacted]なければ正常な財政運営は[redacted]して、標準税率を[illegible][redacted]と規定して[redacted]村[redacted]いる[redacted]のように[redacted]ているところで[redacted]て困難なことと考え、一[redacted]からの繰入れや積立金のとりくずしをして三〇、九一%という半分にも満たない税に止めたわけです。それでも納めていただくみなさんとしては大変なことと思いますが、このような内容について村民の充分な理解と協力を切望しております。

なお、昭和四十年度の賦課割合は次のとおりであります。

△所得割 一万円につき、二五二円。

△資産割 税額千円につき、一四〇円。

△均等割 一人につき、五五三円。

△平等割 一世帯につき、一、一三六円。

（社会厚生課）

[redacted]して、さきごろ役場を通じ村社会福祉協議会に、三千七百五十四円の献金がありました。

村社協では、献金の趣旨に沿って社会福祉事業に浄財を役立せたいと感謝しています。

就任の御挨拶

田沢中学校長 **藤田庚二**

中魚十日町の内、中里村に在勤を命ぜられ、田沢中学校に着任いたしました。生まれは十日町市下条ですから、遠いというほどでもありませんが、子供の頃から川治以南をすべて上郷と総称してきかされていましたので、やはり遠いような気もいたします。

当村は大村で、なかなか教育熱心のところときいております。着任して新装なった体育館に入ったとき、なるほどなあ―と感じました。これだけ思いきった体育の殿堂を築くということは、それなりの大きな夢と構想を将来にもっておられることだと確信します。中学校教育に期待される校区の皆さん、村当局の方がたにいかにして応えるかと考えるとき、その責任の重大さを痛切に感じます。

年々戸数の減る農村、高校志望率は年々増していき、就職はほとんど村外である現状で、生徒をどのようにして教育すべきかという命題は、大変な難題であります。あらゆる機関、団体、階層の皆さんから絶大な御支援をいただくことによって、少しでもこの命題に回答していきたいつもりであります。

どうぞ、よろしく御指導御鞭撻くださいますよう紙上をかりて、お願い申しあげます。

離任の辞

前田沢中学校長 **石沢藤栄**

私はこのたび、南魚沼郡六日町立五十沢中学校長を命ぜられ、去る五日赴任いたしました。

就任の御挨拶に、母校にも等しい学校の長として迎えられた光栄に応え、教育者としての終焉の地と定め、精魂を傾けてその任に当ることをお約束したところでありますが、事志と異なり御高配を賜った村民各位の御期待に添え得ない身の不徳を心からお詫び申しあげる次第でございます。

昭和三十二年四月、組合立貝野小学校長として赴任、県下に喧伝された学校問題の最中に屋内体育館が落成し、所懐の一端を作詞、落成を讃える歌としてその喜びを唱和した感激、給食棟の竣工、完全給食の実施、環境整備等々地域住民の御支援に心から御礼申し上げるところであります。

不肖、昭和三十七年四月、名誉ある田沢中学校長を命ぜられ赴任当初から体育館建設の大事業に遭遇、敷地問題の解決、資金調達の行脚等苦難の道ではありましたが、懐しい思い出となりました。高橋村長の御理解によって、学校側要望通りの県下屈指の大体育館が落成し、教育効果を高めつつあることは、まことに欣快に堪えません。反面技術家庭科の教室と施設の不足不備、さらに普通教室も不足して圧縮学級を余儀なくされた三ヵ年は、針の山に座す苦しみであり、身の不徳をかこつだけではすまされない問題であって、去るにあたりいちばん慚愧に堪えないところであります。

教育は百年の大計と申しますが、村教育の方針、長期計画等明示して、村民熟知し一丸となり、計画的にその達成に邁進するところでなければ、画餅の謗はまぬかれないところであります。なにとぞ、期待される人間像同様に、期待される中里村教育像の確立を願って止みません。任地両魚五十沢も問題が山積し老骨に鞭して活動せねばならないと思っております。学校は一応整備されておりますが、それに伴なう内容の充実こそ与えられた使命と存じます。山紫水明と共に、人情濃まやかな風土であります。がっちり脚をかまえて雄大な教育に精進いたします。

御高配をいただきながら、無為徒食のまま離任いたしましたが、故郷でもありますので一度は復帰して御恩の万分の一でもお返ししたいと存じます。末尾ながら、村民各位の御健康をねがうとともに、中里村の御発展を祈念して離任の挨拶といたします。

若人に希望ある農業を

青年農業学校を開く

津南地区普及所で

こゝ数年の間に村の青少年が、とくに農業青少年が少なくなって〝あとつぎ〟のない農家もぼつ〳〵あるということですが、農業後継者の確保は、いまや全国的に大きな問題となっています。この問題の解決については各方面でさかんに論議されていますが、国や県としてもその対策を重視し、農業後継者教育に力を入れています。村でも在村する農業青少年の育成について役場、農協、普及所、学校公民館など関係機関の間で、具体策が協議されてきましたが、このほどその事業の一つとして津南地区農業改良普及所が主体となり、津南地区青年農業学校を実施することになりました。

これは、県と市町村が一体となって行なう農業教育事業で、県が実施としている〝ラジオ農業学校〟を利用し、月一〜二回の現地集合研修会を開き、青少年の社会的教養、農業や生活の基礎知識、実際に役立つ技術や経営の方法を身につけてもらおうというもので、従来のラジオ農業学校をより充実し、楽しい学習の場としていきたいと普及所では言っています。

受講者は、津南中里村地区の農業青少年であればだれでも参加できます。第一回目の集合研修会は、開講式をかねて四月二十日午前十時より津南町中央集会所で開かれますが、中里村からもおゝぜい参加して下さい。とくに農家経営主の方々からも受講を奨励していたゞきたくお願いします。

【写真は今春中卒者と希望を話しあう普及所の人たち】

友達と楽しく学ぶ

青年学級生募集中

公民館では、働いている若い人たちのなかまづくりと、楽しい学習の場として青年学級を開きます。次のような計画をたてていますので、友だちをさそいあって仲間入りして下さい。

× ×

1開設期間 四月〜四一年三月

2開設場所 中里村公民館

3学習内容 一般教養、農業研究（青年農業学校と一体）、料理生花、歌唱レクリェーション。各々コース学習とする。

4学習の日 △一般教養コースは毎週金曜日午後七時〜九時まで二時間。△農業、料理生花、歌唱コースは未定。

5受講料、無料、たゞしテキスト代や実習費は負担してもらいます。

なお、一般教養コースは四月十六日から開講しますが、各コースとも学級生を募集中ですので、入級希望者は住所氏名年令希望コースを、中里村公民館にご連絡下さい。手紙、電話、来館いずれでもけっこうです。

住みよい郷土建設

4月24日郡総会開く

住みよい郷土建設協会中魚沼支部の総会が、次のような次第によって中里村で開催されることになりました。

健康で文化的な生活を営むには、住民一人ひとりが、衛生道徳を身につけて、自分の周囲を〝清潔にしよう〟とする気持ちが大切です。日頃の実践活動を話しあったり、環境衛生の知識を深め、その方法技術を研修する会で、中魚沼各地域から集まります。中里からも村民各位多数参加して、環境衛生に役立たせて下さい。

▽日程

日時 四月二十四日午前十時〜

場所 中里村児童館

内容 優良地区表彰、体験発表 特別講演 清水亭衛講師